

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

	事業所名	児童発達支援センターさくらんぼ園	公表日 2025年3月24日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		十分なスペースを確保している。共有スペースは利用時間が重ならないように調整し、感染対策のため利用人数にも配慮している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準以上の職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚支援を活用し、こどもにわかりやすく構造化している。またこどもの成長発達に合わせて調整している。施設全体のバリアフリー化が図られている。	職員は構造化や環境調整についての正しい理解のために研修を重ね、子ども一人一人に応じたものになっているか、常に検討していけるように務める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		発達支援室、遊戯室等の清掃と消毒を実施している。衝立等を活用してスペースを区切りこどもの活動に合わせて調整している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		衝立で仕切り、個別のスペースを確保したり、静養室や相談室、談話コーナーを使用したりしている。	複数のこどもが同時に個別の部屋や場所を必要とした場合、調整が必要になる。また常に子どもが落ち着ける場所も確保したいが、現状では難しい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		クラス会議や係会議、職員会議等で目標設定と振り返りを行い業務改善に取り組んでいる。	職員ひとりひとりが積極的に参画できるような会議運営を目指したい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケートを実施し、意見箱を設置している。親子療育や個人面談等の機会に保護者とコミュニケーションを取り、意見等を把握するようにしている。	意見箱の設置や活用について周知を徹底する。保護者の意見等は速やかに職員間で共有し改善策を検討し実践している。今後も継続したい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内評価を活用したり、クラス会議や係会議で出された意見等を、職員会議で取り上げ、具体的な改善策を検討し実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	長崎市による指定管理者のモニタリングが実施されている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月1回の園内研修を実施している。虐待防止や感染症対策についての研修は法人全体で企画し実施している。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		令和7年1月にホームページに掲載。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		5領域に沿ったアセスメントを作成し実施している。アセスメント後は関係機関からの情報も参考にしながら支援計画を作成している。	アセスメントの項目、内容については今後も必要に応じて検討し改善に努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援計画原案を作成後、個別支援会議でクラス担任全員がより良い支援目標、支援内容を具体的に検討している。	5領域を具体的な支援内容にどう落とし込むかは今後も職員間で協議を重ねていきたい。また、給食会議の結果も踏まえて共通理解を図りたい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援会議やクラス会議、活動後の振り返り等で内容の確認を繰り返し行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントを作成し、確認している。必要に応じてKIDSも実施したり、関係機関からの情報も活用して確認している。	子どもの適応行動の適応状況については、行動観察を個人記録に的確に記録し、より活用できるようにしていきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援計画は児童発達支援ガイドラインに沿って5領域すべてについて協議し支援目標や支援内容を設定している。	

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動のプログラムは、5領域を意識して偏りのないようにクラス担任、児発管等で立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動プログラムが固定化しないように過去5年間の活動記録をいつでも閲覧できるようにして、内容や進行の確認をしながら立案している。また経験の幅と質を意識して工夫している。	製作等の内容については写真で記録してテーマが重なっていても内容が重複しないように工夫しているが、年間計画を充実させ準備を効率的に行うようにしていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童一人一人の発達状況にあわせて個別で取り組む活動と、2～3人のグループからクラス全員、3クラス合同の集団活動を体験できるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援の手立てや役割分担等の打ち合わせを行い、チームで連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		行事の準備や会議、個人面談等で十分な時間を割けないこともあるが、振り返りを行い気付きを共有している。記録をとりながら気づきを共有するようにしているが、親子はグループが増えて振り返りの時間が十分に取れないことがあった。	クラス間だけでなく必要な場合は、単独と親子あわせて全体で気づきを共有している。親子療育は、振り返りの時間の確保が課題である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録の時間をとり、活動記録や個人記録以外にも各行事や避難訓練等の記録をとるようにしている。	記録と反省会の時間を設けているが、支援を充実させることと、時間を効率的に使うことを両立できるようにしていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		年2回のモニタリング（半年に1回）の行い個別支援計画の見直しを行っている。	子どもの発達状況や生活環境の変化などにも応じてモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者（担任）が参画している。必要に応じて専任の児発管も参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		主治医と月1回の健康管理会議を行って連携して支援を行っている。	保健や保育、教育とは、こどもの状況を通してその都度連携を取っているが、定期的な連携の体制については今後の課題である。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就園や並行通園等については、情報提供書と個別支援計画を提供し情報共有と相互理解を図っている。	支援場面を見学してもらうことで相互理解が深まるため、今後も見学の受け入れと訪問支援を継続していきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		情報提供書と個別支援計画等を提供し、支援内容の情報共有と相互理解を図り、就学先との移行連絡会にも参画している。	診療所が発行している「育児サポートファイル」を活用して幼児期の支援内容の記録を充実させて移行支援に役立てていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		地域障害児支援体制強化事業において、地域の保育園や幼稚園、こども園等を対象に研修会を実施した。	次年度は児発事業所を対象にした研修も予定している。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		同法人内の他事業の専門職と情報交換を行い助言を受けている。また、外部研修にも参加している。	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援子ども部会に定期的に参画している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		市内3か所の保育所と交流保育を行っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		週1回の親子療育や個人面談だけでなく、日頃から保護者とのコミュニケーションを図るようにしている。	行事が本来の自由参観にもどり、保護者と直接お会いする機会が増えている。共通理解を図るためにあらゆる機会を活かしていきたい。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		月1回家族教室を開催している。ペアトレが実施できなかったが、外部講師を招いたり、保護者の交流を目的とした手芸講座を開催したりと内容を検討して多くの参加を呼びかけている。研修等の情報提供も行っている。	次年度は、ペアプロやCAREプログラムを計画的に行いたい。多くの家族に参加してもらうためにオンラインや配信等も検討していきたい。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			支援プログラムについてはR7.1月にホームページに掲載した。周知を徹底したい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングや個別支援計画の説明時に必ず保護者の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別で詳しく説明し、同意を得ている。説明時に保護者から新たな意向や気づきがあった場合は、すぐに見直しを行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡票や親子療育で悩みや心配事に応じ、面談を行い詳細を把握して具体的な対応策等の助言と支援を行っている。	今後も保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心がけていきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		家族会「母の会」の運営に協力し、懇談会や親子療育は保護者同士で交流する機会となっている。運動会ではきょうだい参加の競技を企画している。	きょうだい支援の一環として家族教室の時間を活用してきょうだい支援の活動プログラムを検討したい。(例：きょうだいを対象にした親子クッキング)
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れがあった場合、児発管やチームで状況を把握し、職員会議で周知し対応している。	意見箱の設置についてさらに周知を徹底したい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		園だよりやクラスだよりで、活動概要や行事予定等を発信している。行事の案内や状況の通信もその都度発信している。	ホームページの活用（更新を含む）に取り組みたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについては内容を文書で確認したうえで同意を得ている。保護者にも写真や動画等の取扱いについて配慮をお願いしている。	掲示物や文書の取扱い（廃棄も含む）、職員間の会話等にも十分留意することを継続したい。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚情報を活用したり、文書の内容をわかりやすい言葉にしたり配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の方の運動会への招待や、見学等の受け入れ、ボランティアの参加等を行っている。センター文化祭はポスター掲示等で地域に向けてひろく周知した。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		それぞれのマニュアルに対応した研修や訓練を行っている。	家族への周知を徹底したい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		法人内で策定し全館避難訓練を実施している。	事業継続計画について定期的に見直していききたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始時に健康チェック表とアセスメントで必ず確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		利用開始時に管理栄養士によるアセスメントを行い、医師の指示書に基づいて除去食や活動プログラム等対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		遊具点検や環境点検等や、避難訓練等を安全計画にそって行い、安全管理を行っている。	年間を通して改善できたことと課題を把握し、安全計画の見直しを継続していききたい。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難訓練の実施について利用開始時に説明し、毎月の避難訓練についても周知している。	次年度は安全計画の内容の周知をさらに徹底したい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットについては発生時に職員に口頭で周知し、再発防止に向けて検討し報告書を作成している。改善策についても周知を徹底し実践している。	毎年、全職員でヒヤリハット集を回覧し内容を共有しているが、再発防止ために活用できるようにしていきたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人内で虐待防止委員会を設置・運営し、年1回の虐待防止のための研修や職員へのアンケートを実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束適正化検討委員会を開催し、適正にすすめている。	